いわて未来づくり機構だより

平成30年度
第２号
発行日　平成31年2月28日

会員の皆様には、益々御清栄のこととお喜び申し上げます。
本号では、平成30年11月27日に開催された平成30年度第2回ラウンドテーブルの概要について御報告します。

事業報告

平成３０年度 第2回ラウンドテーブル

平成30年11月27日(火)の10時から、岩手銀行本店大会議室において、いわて未来づくり機構会員約50名の参加のもと、**平成30年度第２回ラウンドテーブルを開催**しました。

今回は、ラウンドテーブルメンバーと作業部会の距離を縮め、一体感の醸成を図るため、各作業部会の活動状況の報告及びラウンドテーブルメンバーによるディスカッションを行いました。

作業部会の活動報告及びディスカッション

県民運動　「復興と新たな社会基盤等の活用」　を推進する作業部会

１　かけ橋作業部会

震災からの復旧・復興にあたり、広く内外に開かれた復興が重要との考えのもと、被災地のニーズと企業の支援をつなぐ復興支援マッチングなどの取組を平成23年度から開始。首都圏の企業等における、自らの持つノウハウを活用して社会の課題解決に貢献するとともに利益も創造する活動（ＣＳＶ）の動きをとらえながら、こうした企業との連携を進め、更なるマッチングにつなげていく。

【ラウンドテーブルメンバーからの主なコメント】
○　平成28年台風10号の被害を受けた企業の存続につなげたマッチングは大きな成果。
○　取組について地元の認知度が低い。もう少し地元でのＰＲ、営業活動に力を入れてほしい。

２　いわて復興未来塾作業部会

復興を担う人材育成や人的ネットワークづくりの強化を図ることを目的に、復興に向けた講演やパネルディスカッションなどを行ういわて復興未来塾を平成27年度から開催。開催回数は16回、参加者数は延べ2,620人に達している。

【ラウンドテーブルメンバーからの主なコメント】
○　復興というものは本質的に学びのプロセスでもあり、この方法は有効だと思う。
○　人づくりという面からすると、方向性としてネットワークづくりにもう少し力を入れてほしい。

３　新しい三陸創造作業部会

「三陸防災復興プロジェクト2019」や「ラグビーワールドカップ2019™釜石開催」などの成功と、そのレガシーを三陸の地域振興等につなげるため、平成30年度から活動を開始。各イベントの成功に向けて、様々な主体の参画・連携を促進するとともに、開催機運の醸成や周知活動を展開している。

【ラウンドテーブルメンバーからの主なコメント】
○　風化を防止し、今からでも復興への参画を頂くためにも集中的に取り組むことに意義があると思う。
○　三陸鉄道の利用者増のための仕組みづくりや、三陸自動車道の活用方法を考えることが必要。

4 復興教育作業部会

復興を支える人材を育成するため、機構の会員である大学や団体等から講師を県内小中学校・高校に派遣する「いわての師匠派遣事業」を平成 26 年度から開始。これまで、「災害医療」や「心身の健康」などをテーマに行い、延べ26校で3,321人が受講。

【ラウンドテーブルメンバーからの主なコメント】
- ○ 地元を知り理解を深め、地元愛につながる取組であり大変有難い。学校安全学について成功を期待。
- ○ 風化しないように、少なくとも地元では復興教育を継続していかなければならない。

県民運動 「人口減少下における地域の活力維持」 を推進する作業部会

5 ふるさといわて創造作業部会

大学生の地元就職を促すため、平成 28 年度から活動を開始。学生に地域の特色ある事業所やその活動を知ってもらう地域志向型インターンシップを実施するとともに、学生と事業所とが交流を行う「ふるさと発見！大交流会」を昨年度に引き続き開催する。また、機構会員を対象としたアンケートを実施し、Ｕ・Ｉターンした理由や背景を分析しているところ。

【ラウンドテーブルメンバーからの主なコメント】
- ○ いわてキボウスター開拓塾、大交流会など非常に成果が出ていると評価。事業の継続に期待。
- ○ 「岩手が良い」という人たちを作っていく、それを若者や家庭、学校に理解してもらうことが大事。

6 医療福祉連携作業部会

高齢者の孤立防止や被災地のコミュニティの再構築に向けて、スマホや携帯電話等のＩＣＴ機器から安否情報を発信し、高齢者の見守りに生かす実証実験を釜石市や山田町等で行ってきた。加えて、加齢に伴う心身の変化があっても最後まで自分らしく生きることができるような、まちづくりのあり方や、AI や IoT を活用した見守り方法の研究などに取り組んでいる。

【ラウンドテーブルメンバーからの主なコメント】
- ○ 外国人労働者の増加が見込まれており、多文化共生に向けた取組にも応用できれば良いと思う。
- ○ AI や IoT など新しい技術を実装し、人口の少ない地域でも幸せに生きることに結び付けるのは大事。

7 子育て支援作業部会

子育て支援の環境整備を推進し、子育てしやすい岩手県を実現するため、平成 30 年度から活動を開始。「育児と仕事の両立」をテーマにしたシンポジウムを 12 月に開催する。また、来年度実施予定の子育て支援ニーズ・シーズ調査に向け、準備を進めていく。

【ラウンドテーブルメンバーからの主なコメント】
- ○ 子育てには、企業・行政・家族の３つの支援が必要。家族では祖母の存在が重要な場合がある。
- ○ 子供の才能をどう伸ばしていくか。大学・市町村・県と高齢者が連携して幼児教育を行ってはどうか

県民運動「ＩＬＣなど科学技術の進展への対応」を推進する作業部会

8 イノベーション推進作業部会

本県の持つポテンシャルを生かしたイノベーションの創出に向けた取組を強化するため、平成 29 年度から活動を開始し、本県の大学や研究機関等における研究開発の実態把握や分析を行ってきた。その分析結果を踏まえ、イノベーション創出に向けた方向性を検討し、平成 30 年度に県が策定するイノベーション指針に反映させようとしているところ。

【ラウンドテーブルメンバーからの主なコメント】
- ○ イノベーション推進の中でＩＬＣ誘致実現の占める割合は大きいと思う。
- ○ 部会の取組が県の次期総合計画に掲げるプロジェクトなどと整合していくことが重要。
- ○ 岩手ならではのイノベーションが発揮できる分野にフォーカスして進めていくことが必要。

ラウンドテーブルの概要及び資料は、機構のホームページから御覧ください。

いわて未来づくり機構事務局

会員各機関の代表者、担当者、メールアドレス等に変更がありましたら、事務局までお知らせください。

〒020-8570　岩手県盛岡市内丸 10-1　岩手県政策地域部政策推進室（担当：伊五澤、奥寺）
電　話：019-629-5195（FAX019-629-5254）　　E-mail：AA0001@pref.iwate.jp
ホームページ　http://www.pref.iwate.jp/seisaku/mirai/005879.html